

「水がきれいにならないのは土のせい？」



池を拡大しながら、ある一定の水がたまるようになりました。しかし、水はいつも濁ったまま。A 児「川に入ると水が汚れてしまうのはなんで？」K 先生「何色に水が汚れるの？」B 児「明るい茶色」C 児「この土と同じ色！」D 児「この土が流れてるんじゃない？」k先生「この土が流れないようにするにはどうしたらいいのかな？」A 児「板でとめたらいねん」B 児「でも下からも染みてくるんちゃう？」「じゃあガラスとか石とか染みないやつを底に置くのは？」と、汚れる原因は土が流れてること、それをとめるには板の堤防をつくること。そこに染みない工夫をすること、という作戦が出てきました。

K 先生は、どこに子どもたちの考えるエネルギーを生かすのか、悩んだ結果、子どもの意欲を保ちつつ計画を進めていくことを大切に保育を組み立てました。防水ライナーを用意し底抜けしないようにすること。板を固定する方法ではなく、子どもが板の置き場所を工夫しながら池の形作りにエネルギーを使えるように、子どもの設計図をもとに木枠を用意することにしました。

